

これまでの総括と今後の対応方針について

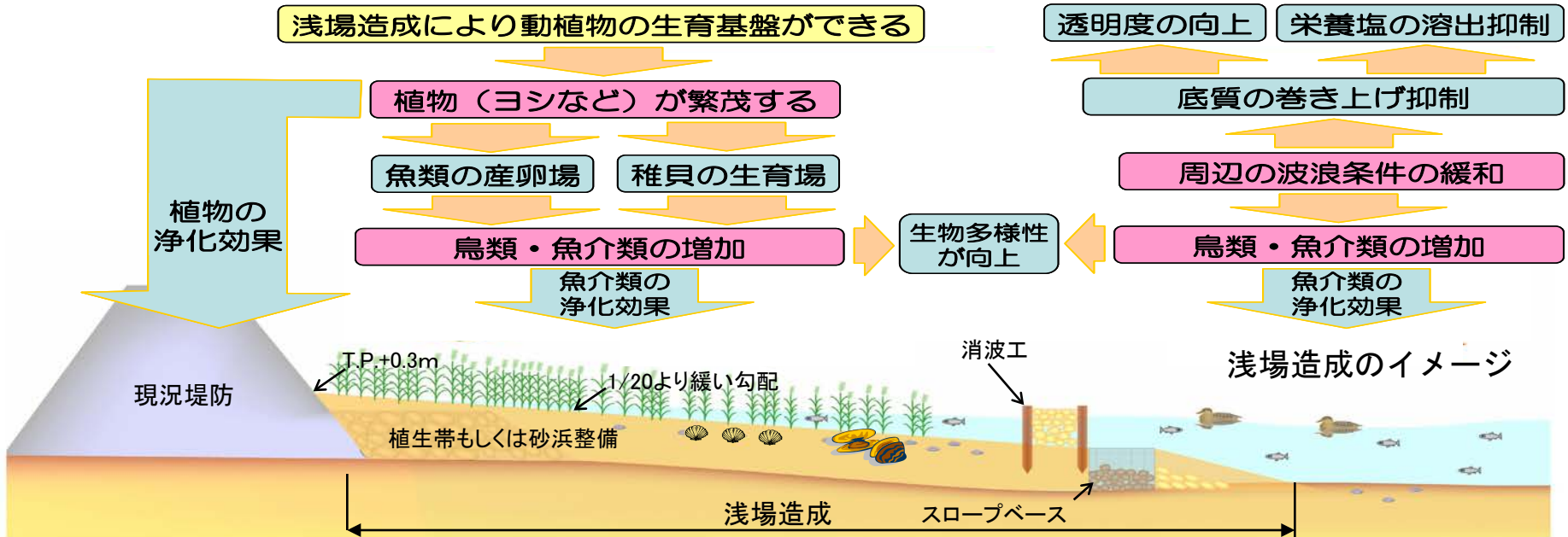
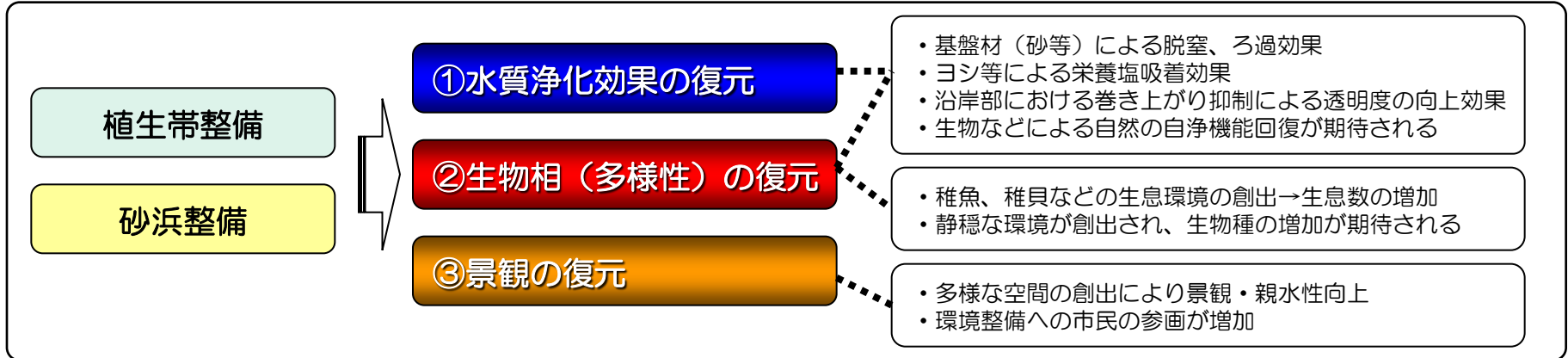
平成27年7月29日



国土交通省 出雲河川事務所

◆ 宍道湖における浅場整備目標（期待する効果）

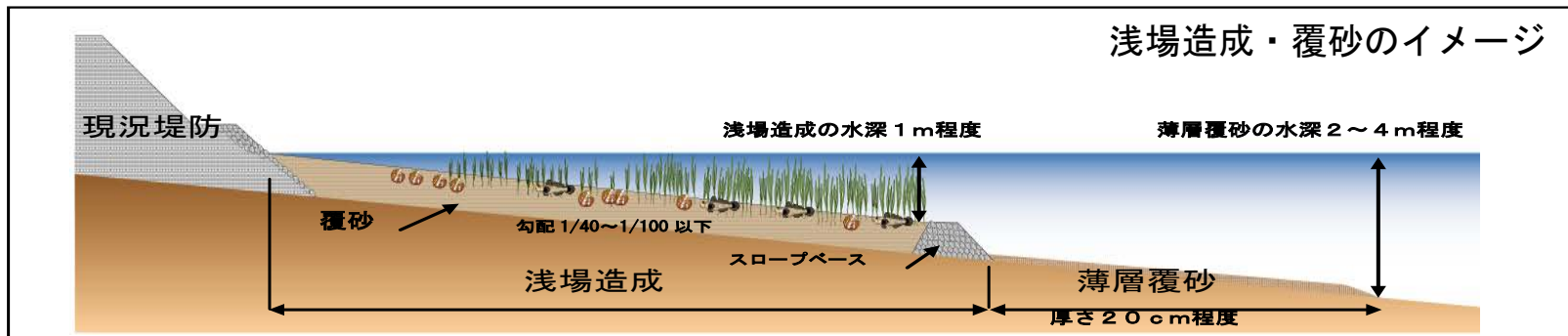
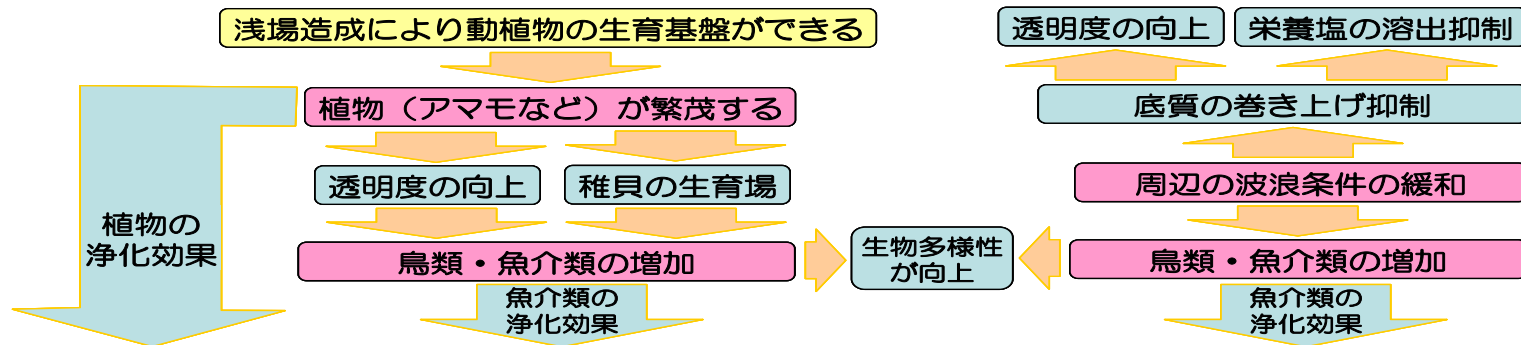
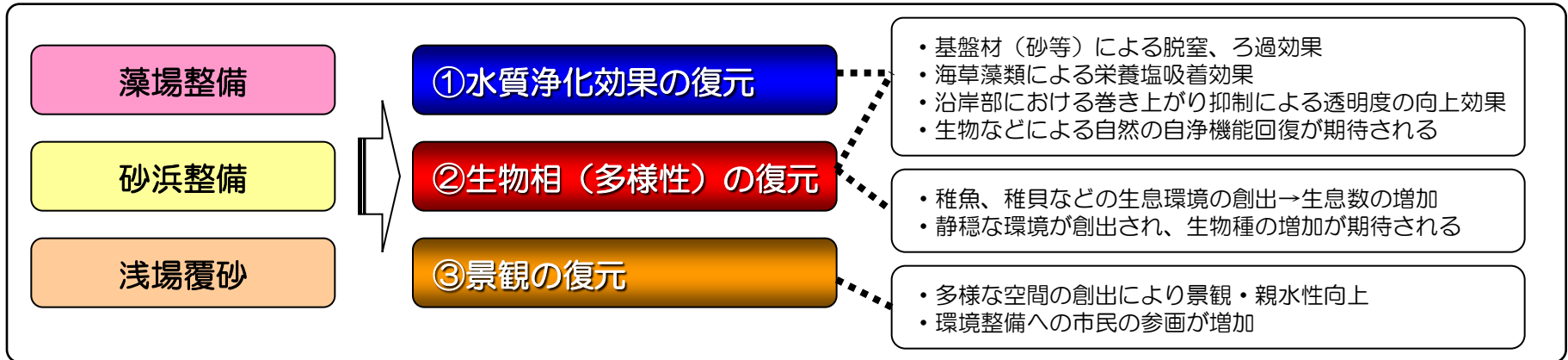
期待する効果



注) スロープベース: 湖底高が深い場合のり止めとして設置
消波工: 風波が強い地区もしくは植生等の活着に必要な場合設置

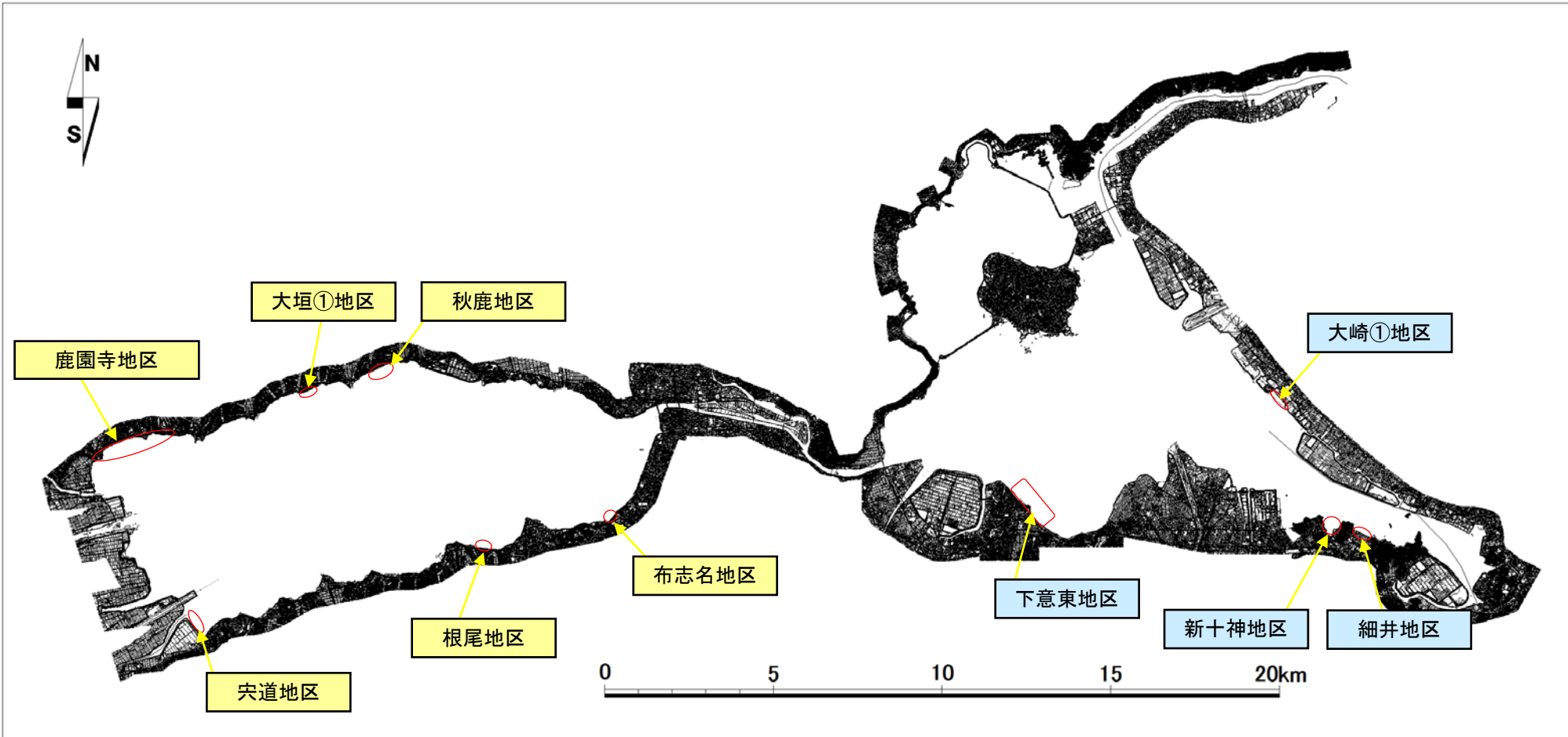
◆ 中海における浅場整備目標（期待する効果）

期待する効果



◆現時点における浅場整備の評価対象地区位置図

■ 宍道湖および中海における事後調査実施地区



◆現時点における浅場整備・覆砂の総括と今後の対応方針

期待する効果	現時点における効果と課題		現時点での評価
	宍道湖	中海	
水質浄化効果の復元	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 植生繁茂による栄養塩吸着効果の向上 ➢ 波浪、巻き上がりの抑制による濁度低下 〔課題〕植栽されたヨシの管理の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 波浪、巻き上がりの抑制による濁度低下 ➢ リンの溶出抑制(水深4m以浅)・覆砂箇所の一部では改善効果が低減 〔課題〕覆砂効果の持続性の確認 	<p>宍道湖、中海の浅場では、ともに水質浄化効果が発現している。また、地域と連携してヨシの刈り取りを実施している。</p> <p>一方、覆砂効果の持続性などに関する更なる知見の蓄積が必要。</p>
生物相(多様性)の復元	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ヤマトシジミの生息量の増加(一部では増加がみられない) ➢ 植生(ヨシ等)の繁茂 ➢ 鳥類の増加(ヨシ植栽による目隠し効果等に起因し、特に冬鳥に効果あり) ➢ ナゴヤサナエの羽化場所として機能 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 主要二枚貝の生息基盤の復元(アサリ・サルボウガイの増加は限定的) ➢ 海藻の増加(一部で寄り藻の増加) ➢ 海草(コアママモ等)の増加はみられない 〔課題〕消波工背後に集積する寄り藻等への対応 	<p>宍道湖、中海の浅場では、ともに多様な生物相が確認されている。</p> <p>一方、消波工背後に集積する寄り藻などに関する更なる知見の蓄積が必要。</p>
景観の復元	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ヨシ等植生の繁茂による景観向上 ➢ 砂浜の形成による景観向上(一部では砂が地区外へ流出) 〔課題〕最小限の工作物による漂砂防止技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 砂浜の形成による景観向上(一部では砂が地区外へ流出) 〔課題〕最小限の工作物による漂砂防止技術の向上 	<p>植生帯・砂浜整備により宍道湖、中海では、ともに景観が向上している。</p> <p>一方、基盤の安定や漂砂防止技術などに関する更なる知見の蓄積が必要。</p>

■ 今後の方針

一部では課題も残るが整備効果が現れている。また、整備に対する知見も集積しつつある。



○順応的管理を継続し、知見の集積・反映による整備効果の向上を目指す。